

海外の畜産物の需給動向

牛肉

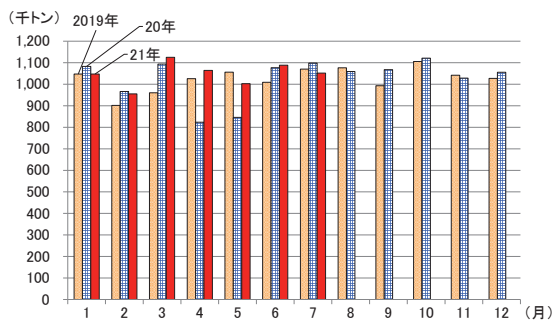
米 国

上半期の牛肉輸出量、堅調な需要を背景に記録的なペース続く

7月の牛肉生産量、5カ月ぶりに前年同月を下回る

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）が毎月更新する「Livestock & Meat Domestic Data」によると、2021年7月の牛肉生産量は105万2000トン（前年同月比4.2%減）と5カ月ぶりに前年同月を下回った（図1）。この要因として、1頭当たりの枝肉重量が前年同月を下回ったことや、と畜場稼働日数が前年同月と比べて1日少なかったことなどが挙げられる。1頭当たりの枝肉重量については、食肉処理場の稼働率低下により増加した前年からやや落ち着いていることや、飼料コスト高により早期出荷が比較的積極的に行われていることなどから減少傾向にある。

図1 牛肉生産量の推移

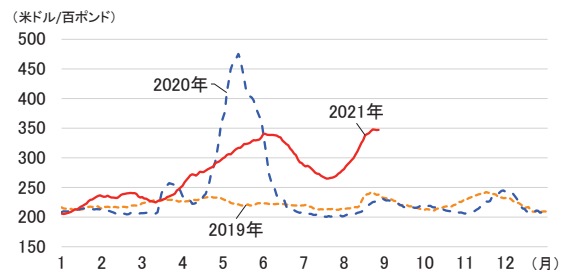


資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」
注：枝肉重量ベース。

8月の牛肉卸売価格、前年同月比約5割高で推移

米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、2021年8月の牛肉卸売価格は例年を大きく上回り、前年同月比約5割高の水準で推移している（図2）。米国内の小売、外食産業からの強い引き合いに加え、中国をはじめとする輸出先の旺盛な牛肉需要が価格を押し上げているとみられる。

図2 牛肉卸売価格の推移



資料：USDA/AMS

注1：カットアウトバリュー（各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格）。

注2：チョイス級、600～900ポンド。

6月の牛肉輸出量、前年同月比45.8%増

USDA/ERSの「Livestock and Meat International Trade Data」によると、2021年6月の牛肉輸出量は12万1200トン

(前年同月比45.8%増)と引き続き記録的なペースが続いており、同年上半期(1~6月)

の合計は75万7100トン(前年同期比21.3%増)となった(表1)。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位:千トン)

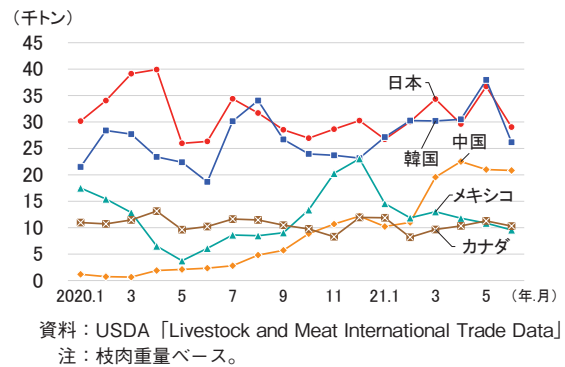
	2020年 6月	2021年 6月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1~6月)	前年同期比 (増減率)	シェア
日本	26.3	29.0	10.3%	186.5	▲4.6%	24.6%
韓国	18.7	26.2	40.2%	182.2	28.3%	24.1%
中国	2.3	20.8	788.5% (約8.9倍)	105.1	1,074.6% (約11.7倍)	13.9%
メキシコ	6.1	9.6	57.0%	71.6	15.2%	9.5%
カナダ	10.2	10.3	0.8%	61.6	▲6.8%	8.1%
台湾	5.9	8.3	40.8%	41.5	1.3%	5.5%
香港	7.1	3.7	▲48.5%	30.0	▲27.9%	4.0%
その他	6.5	13.3	105.4% (約2.1倍)	78.4	17.3%	10.4%
合計	83.1	121.2	45.8%	757.1	21.3%	100.0%

資料: USDA [Livestock and Meat International Trade Data]
注: 枝肉重量ベース。

米国食肉輸出連合会(USMEF)のホルストロム会長兼CEOは、牛肉を含む食肉の記録的な輸出量が続いていることについて、「2021年は、労働環境の悪化や物流障害、米国内外の食肉産業の制限などの多くの課題があった。米国食肉産業にとって大きな逆風となっていたものの、上半期の輸出量が記録的な水準に達したことは、海外の米国産食肉に対する底堅い需要に加え、困難かつ急速に変化するビジネス環境に対する米国食肉産業の高い適応能力を物語っている」とコメントしている。

6月の牛肉輸出量を主要輸出先別に見ると、最大輸出先である日本向けは、飲食店の時短営業や酒類の提供自粛などで外食需要は伸び悩むものの、小売需要がけん引し好調に推移している(図3)。特に冷蔵のショートプレート(バラ)、チャック(肩ロース)、ラウンド(モモ)などの部位の販売が増加して

図3 主要輸出先別牛肉輸出量の推移



いる。韓国向けは、米韓自由貿易協定に基づき21年1月に米国産牛肉の関税が引き下げられたことに加え、日本と同様に時短営業で外食産業の店内飲食が伸び悩むものの、好調な持ち帰りや宅配需要に支えられ、飲食店はこの困難な状況にうまく対応しており、小売やeコマース(電子商取引)需要も引き続き好調であることから、大幅に増加している。中国向けは、アフリカ豚熱に起因する同国産豚肉からの代替需要で食肉全般の輸入品需要

が引き続き高いことから、20年2月に発効した米中経済貿易協定第1段階合意以降、増加を維持しており、21年6月は前年同月の約9倍に増加した。また、メキシコ向けは外

食需要の回復、台湾向けは小売需要の増加などを背景に、いずれも前年同月を大幅に上回った。

(調査情報部 河村 侑紀)

カナダ

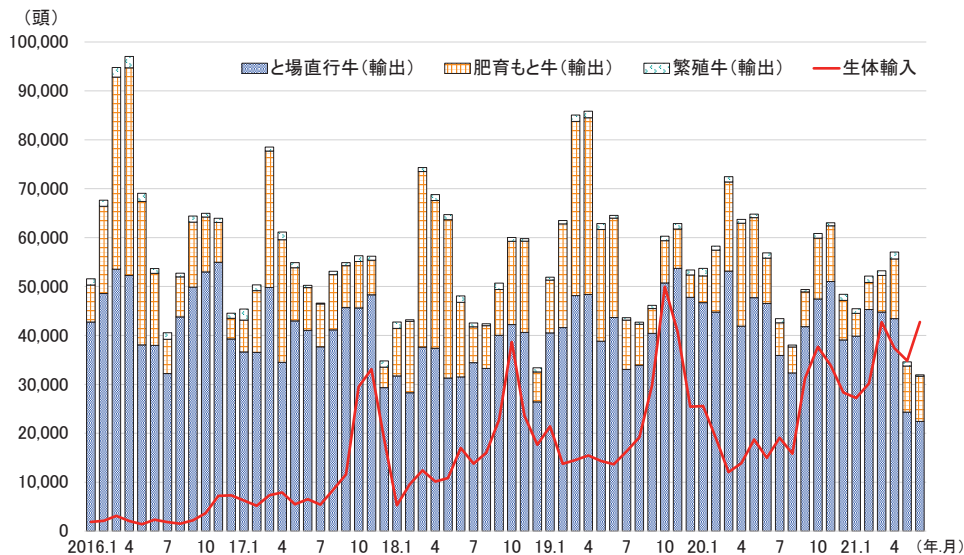
輸出は好調ながらも、増産の見通しは不明

総飼養頭数は前年並み

カナダ統計局 (Statistics Canada) によると、2021年7月1日時点の牛総飼養頭数は1228万5000頭 (前年比0.2%増) と前年並みとなった。これまで度重なる干ばつなどで牛群の拡大が阻まれていたカナダにとって、7月1日時点の頭数が前年より増加したのは、17年以来である。カナダ肉用牛生産

者協会 (CCA) の市場分析部門であるCan-Faxによると、17年から続く同国西部を中心としたフィードロットの導入需要により、米国からの肥育もと牛の導入が増加した一方、米国向けの生体牛輸出が減少したことが要因と分析している。なお、カナダと米国間の生体牛の移動は、カナダの輸出超過の傾向にあるが、5、6月は輸入超過となっている (図4)。

図4 カナダ・米国間の生体牛輸出力・輸入量の推移



資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

総飼養頭数の内訳を見ると、肉用繁殖雌牛は355万頭 (前年比1.7%減) となった (表2)。これは、2002年のピーク時から約130万頭の減少となっており、1988年以来

の低水準である。一方、肉用後継牛は65万5000頭 (同3.8%増) とやや増加しているが、CanFaxによると、この頭数は流動的なもので去勢牛が前年割れしていることもあり、今

表 2 牛飼養頭数の推移

(単位：千頭)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	前年比 (増減率)
総飼養頭数	12,535	12,465	12,300	12,265	12,285	0.2%
繁殖雌牛	4,728	4,704	4,635	4,582	4,541	▲0.9%
肉用牛	3,771	3,734	3,667	3,610	3,550	▲1.7%
乳用牛	957	970	968	972	991	2.0%
未經産牛	1,990	2,006	1,945	1,964	1,987	1.2%
肉用後継牛	688	680	636	631	655	3.8%
乳用後継牛	438	435	439	442	446	0.8%
その他	865	891	870	892	887	▲0.6%
去勢牛	1,549	1,541	1,506	1,493	1,466	▲1.8%
種雄牛	224	223	219	218	227	4.2%
子牛	4,045	3,992	3,996	4,008	4,064	1.4%

資料：カナダ統計局
注：各年7月1日時点。

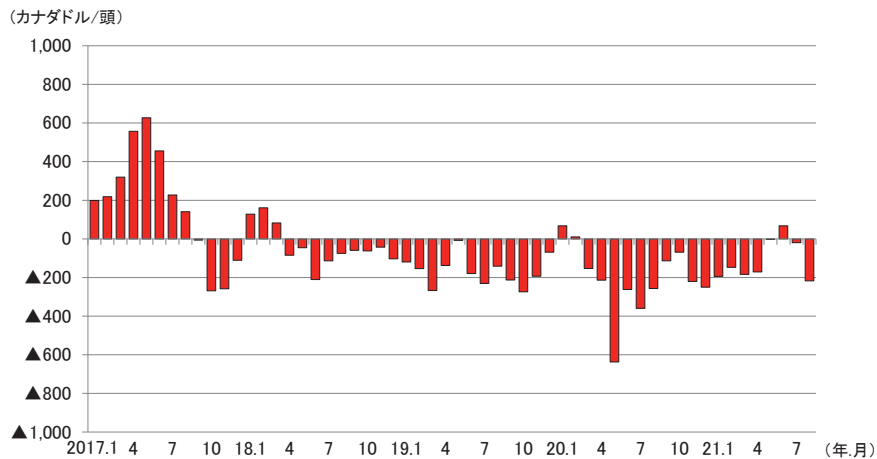
後の天候や飼料環境によっては、肥育もと牛としてフィードロットへ導入される後継牛が増える可能性もあると述べている。

飼料費の高騰により損益悪化

CanFaxによると、フィードロットの経営

は2018年4月から収益悪化が続いており、今年5月に一時黒字になったものの、6、7月は再び赤字になっている（図5）。この要因として、飼料価格上昇の影響が挙げられている。

図 5 カナダにおけるフィードロットの損益の推移

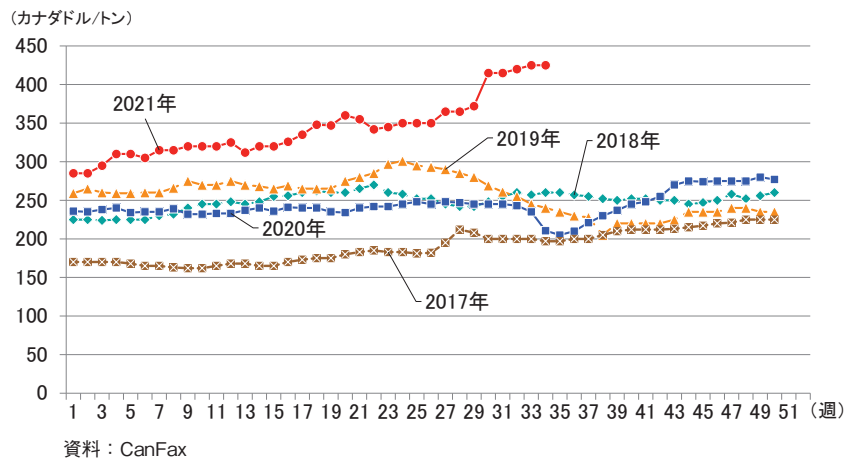


資料：CanFax
注：若齢肥育去勢牛1頭当たりの損益。

カナダでの飼料穀物の中心となる大麦の価格は、干ばつなどの天候不順による供給減少に加えて、中国向けなど好調な輸出需要を背景に、17年後半から上昇基調で推移しており、21年は在庫量のひっ迫などから、さら

に高騰している（図6）。また、昨年まで比較的安価であった米国産のトウモロコシ価格が高騰していることも、フィードロットの損益悪化に拍車をかけている。

図6 アルバータ州の大麦価格の推移



カナダ産牛肉輸出は堅調に推移

2021年上半期（1～6月）のカナダの牛肉輸出量は、21万2455トン（前年同期比26.1%増）と堅調に推移した（表3）。輸出先別に見ると、最大の輸出先である米国向けは15万1383トン（同16.6%増）と引き続き増加基調にあり、米国に次ぐ輸出先である日本向けも2万3591トン（同33.2%増）と、これら上位2カ国で総輸出量のおよそ8割を占めている。第3位の中国向けも9832トン（同約2.5倍）と大幅に増加し、6月単月の

輸出量では2381トン（前年同月比約8.6倍）を記録した。中国の輸入需要は依然として高く、引き続き堅調に推移すると予測されている。また、第4位のメキシコ向けは、輸出量は増加しているが、平均単価が下がっている。CanFaxは、メキシコ経済の低迷により、需要が低価格部位にシフトしていると分析している。また、全体の輸出に占める割合は少ないが、ベトナム、フィリピン向けの輸出量も大きく増加しており、アジア市場向けの伸びが目立つ。

表3 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2020年 6月	2020年 (1～6月)	2021年 6月	前年同月比 (増減率)	シェア	2021年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)	シェア
米国	27,978	129,886	27,793	▲0.7%	71.2%	151,383	16.6%	71.3%
日本	2,460	17,706	4,785	94.5%	12.3%	23,591	33.2%	11.1%
中国	276	3,936	2,381	762.7% (約8.6倍)	6.1%	9,832	149.8% (約2.5倍)	4.6%
メキシコ	840	4,322	1,417	68.7%	3.6%	8,182	89.3%	3.9%
ベトナム	390	1,600	969	148.5% (約2.5倍)	2.5%	6,701	318.8% (約4.2倍)	3.2%
香港	724	5,754	612	▲15.5%	1.6%	4,201	▲27.0%	2.0%
韓国	345	2,372	481	39.4%	1.2%	4,522	90.6%	2.1%
台湾	82	850	144	75.6%	0.4%	462	▲45.6%	0.2%
フィリピン	—	222	100	—	0.3%	1,321	495.0% (約6.0倍)	0.6%
その他	224	1,883	327	46.0%	0.8%	2,260	20.0%	1.1%
合計	33,319	168,531	39,009	17.1%	100.0%	212,455	26.1%	100.0%

資料：Statistics Canada
注：製品重量ベース。

（調査情報部 上村 照子）

牛肉生産量、輸出量ともに回復の兆し

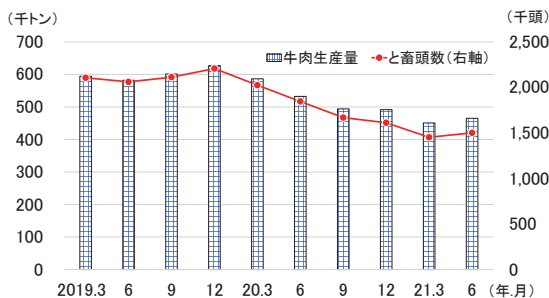
と畜頭数、牛肉生産量がともに増加に反転

豪州統計局（ABS）が2021年8月に公表した統計によると、本年6月の牛と畜頭数は150万1700頭（前年同月比18.6%減）と大幅に減少したが、前回公表（本年3月）の145万2800頭からやや増加し、20年3月以降の減少傾向から増加に転じた（図7）。これに伴い、牛肉生産量も46万5100トン（同12.7%減）とかなり大きく減少したが、前回公表の45万900トンからはやや増加した。

また、豪州フィードロット協会（ALFA）によると、21年4～6月期の牛と畜頭数のうち、穀物肥育牛が67万5302頭（全体の45%）となっており（注1）、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）などによる不透明な市場環境下でも、フィードロットにおける安定供給の強みが、穀物肥育牛の高いと畜割合を維持させているとしている。

（注1） 海外情報「2021年6月末のフィードロット飼養頭数、過去2番目の高水準（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003030.html）を参照されたい。

図7 牛肉生産量およびと畜頭数の推移



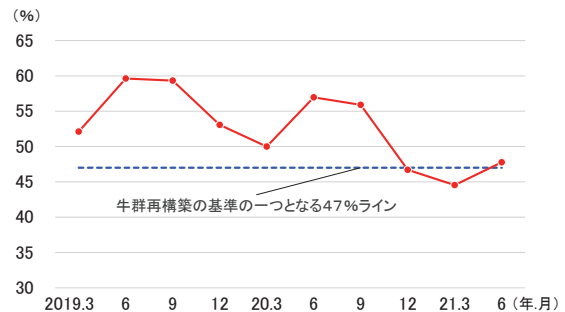
資料：ABS

注：生産量は枝肉重量ベース。

他方で、豪州の牛群の縮小や再構築に関する指標である、全体のと畜頭数に占める雌牛の割合「FSR」^(注2)を見ると、21年6月は47.7%と前回公表（本年3月）の44.5%から上昇している（図8）。これについて同国の畜産調査会社であるトーマス・エルダー・マーケッツの市場分析担当者は、好調な肉牛価格を背景に、雌牛をと畜に回す一部の生産者が存在することなどから、牛群の再構築のペースがやや鈍化していると指摘している。

（注2） 同値が47%を超えた場合には牛群が縮小に向かうとされ、47%以下の場合、牛群が再構築段階に入るとされている。

図8 雌牛と畜割合 (FSR) の推移

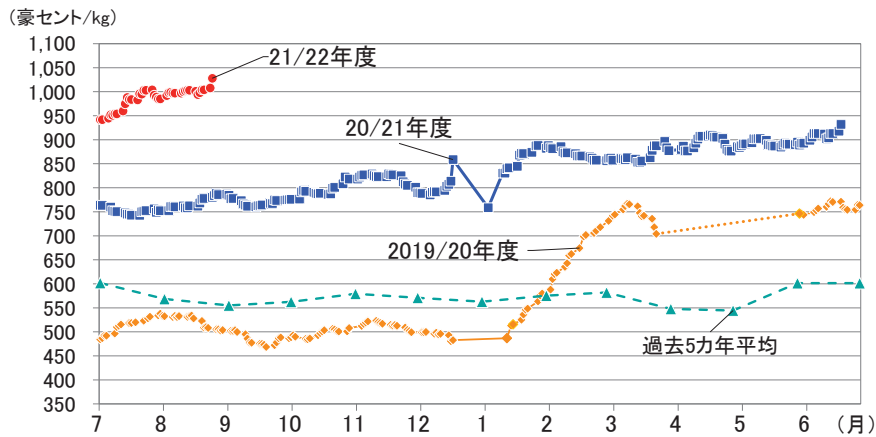


資料：ABS

肉牛生体取引価格は続伸

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、8月24日に過去最高となる1キログラム当たり1028豪セント（843円：1豪ドル=82円）となり、記録更新を続けている（図9）。

図9 EYCI価格の推移



資料：MLA

注1：年度は7月～翌6月。

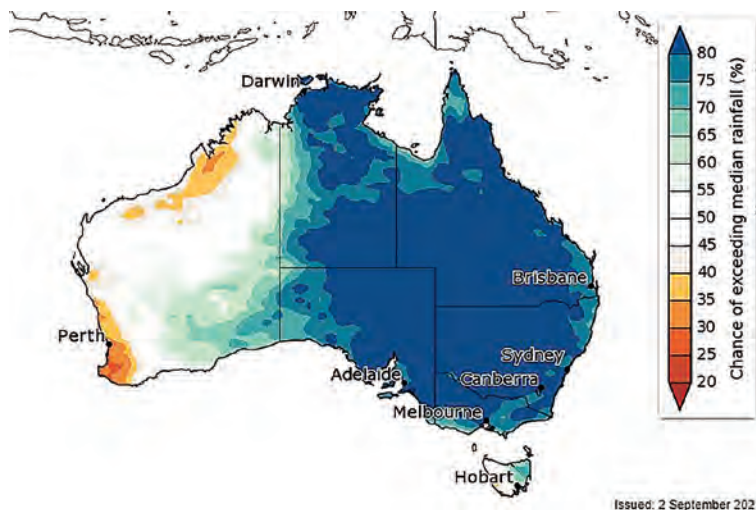
注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

注3：2020年3月26日～6月1日の間は、新型コロナウイルス感染症の影響でEYCI価格の集計を実施していない。

豪州気象局（BOM）によると、豪州東部のほとんどの地域で春季（9～11月）の降雨量が年平均値を60%以上の確率で上回ると予測されていることから（図10）、引き続き

き良好な放牧環境下で牛の保留意欲は高く維持され、牛群再構築が進むとみられている。このため、業界関係者の間でも肉牛価格は今後も堅調に推移するとみている。

図10 春季（9～11月）の豪州における降雨予想図



資料：BOMホームページから引用

輸出量は一部で回復の兆し

豪州農業・水・環境省（DAWE）によると、2021年7月の牛肉輸出量は8万1171トン

（前年同月比8.6%減）となり、前月（同23.8%減）以前に比べると、減少幅は縮小してきている（表4）。また、本年1～7月の累計は50万3582トン（前年同期比21.6%減）

となった。

輸出先別に見ると、これまで主要輸出先は前年同月比でおおむね減少していたものの、21年7月は日本向けが2万4199トン（前年同月比15.6%増）と20年12月以来の増加に転じた。また、韓国向けも1万4006トン（同9.5%増）と増加に転じた。

一方で、米国向けは1万3875トン（同41.7%減）と大幅に減少している。この要因についてMLAは、米ドルに対する豪ドル高や豪州の肉牛価格の高騰、米国南西部を中心とした干ばつの影響による米国内の牛肉供給量の増加などの要因が重なったためとしている。

表 4 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2020年 7月	2021年 7月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1~7月)	前年同期比 (増減率)
日本	20,936	24,199	15.6%	136,089	▲ 14.3%
韓国	12,790	14,006	9.5%	90,187	▲ 0.2%
米国	23,788	13,875	▲ 41.7%	79,108	▲ 42.8%
中国	12,554	12,279	▲ 2.2%	84,433	▲ 36.9%
東南アジア	8,257	8,813	6.7%	56,866	▲ 6.2%
中東	2,811	2,269	▲ 19.3%	17,078	14.0%
EU	829	711	▲ 14.3%	4,639	▲ 17.1%
その他	6,820	5,018	▲ 26.4%	35,181	▲ 12.0%
輸出量合計	88,786	81,171	▲ 8.6%	503,582	▲ 21.6%

資料：DAWE

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。

注3：中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ）の合計。

（調査情報部 国際調査グループ）

豚 肉

米 国

6月の豚肉輸出量、需要増から引き続き記録的な水準

7月の豚肉生産量、前年同月比13.6%減

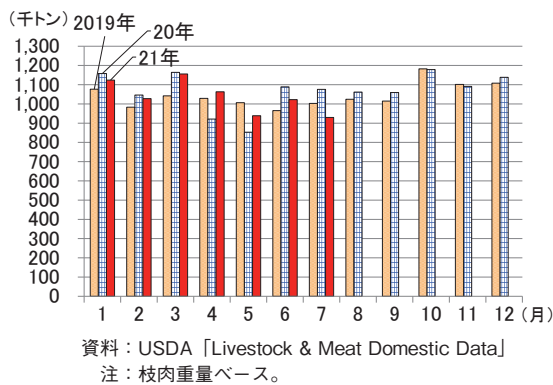
米国農務省経済調査局 (USDA/ERS) が毎月更新する「Livestock & Meat Domestic Data」によると、2021年7月の豚肉生産

量は93万トン（前年同月比13.6%減）と前年同月をかなり大きく下回った（図11）。この要因として、と畜場稼働日数が前年同月比で1日少なかったことに加え、パッカー（処理加工業者）が土曜日のと畜頭数を例年の半分以下に減らしたことなどが挙げられる。な

お、米国のパッカーは、需給状況に応じて土曜日の稼働の有無や処理量を決めている。

USDAによると、肥育豚価格の上昇や6月の豚肉卸売価格が上旬から下旬にかけて2割ほど低下したことで、6月のパッカーの利益率が悪化したことから、パッカー各社は利益率を高めるために7月の土曜日のと畜頭数を大幅に減らし供給量を抑えたとされている。

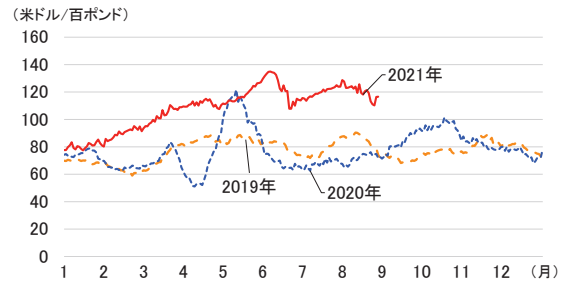
図 11 豚肉生産量の推移



8月の豚肉卸売価格、前年同月比約7割高で推移

米国農務省農業マーケティング局 (USDA/AMS) によると、2021年8月の豚肉卸売価格は例年を大きく上回り、前年同月比約7割高の高水準で推移している (図12)。米国内の外出需要の回復や、豚肉輸出量が過去最高となった前年を上回るペースで推移していることなどによる豚肉在庫の減少が、同価格を押し上げているとみられる。

図 12 豚肉卸売価格の推移



資料：USDA/AMS
注：カットアウトバリュー (各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格)。

6月の豚肉輸出量、前年同月比9.5%増

USDA/ERSの「Livestock and Meat International Trade Data」によると、2021年6月の豚肉輸出量は25万5700トン (前年同月比9.5%増) と19年下半期以降引き続き記録的なペースが続いており、同年上半期 (1～6月) の合計は173万8800トン (前年同期比1.0%増) となった (表5、図13)。

6月の豚肉輸出量を主要輸出先別に見ると、最大の輸出先であるメキシコ向けは、前年下半期以降、同国の経済回復に伴い豚肉需要が好調であることなどから、前年同月比約5割増と大幅に増加した。中国向けは、中国国内の豚肉価格の下落に伴い輸入需要が減少していることから、同約5割減と大幅に減少した。日本向けは、好調な小売需要を背景に冷蔵品が増加している。韓国向けは、小売、eコマース (電子商取引) 需要が好調で、特にバラや肩ロースなどの冷蔵品が増加している。フィリピン向けは、アフリカ豚熱の発生による国内の豚肉供給不足を背景に、21年4月以降豚肉の輸入関税を引き下げたことから同2.6倍となった。なお、この関税引き下げは22年1月までの実施が予定されている。

表5 米国の輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

	2020年 6月	2021年 6月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1~6月)	前年同期比 (増減率)	シェア
メキシコ	49.7	75.7	52.5%	412.7	25.0%	23.7%
中国	77.5	40.2	▲48.1%	385.3	▲31.1%	22.2%
日本	34.1	46.9	37.5%	295.4	8.1%	17.0%
韓国	15.5	20.2	30.8%	134.8	3.2%	7.8%
カナダ	19.3	19.0	▲1.8%	127.9	3.9%	7.4%
フィリピン	4.0	10.5	164.9% (2.6倍)	71.7	326.1% (4.3倍)	4.1%
コロンビア	3.7	7.6	105.1% (2.1倍)	60.8	46.1%	3.5%
その他	29.9	35.6	18.9%	250.3	1.7%	14.4%
合計	233.6	255.7	9.5%	1,738.8	1.0%	100.0%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

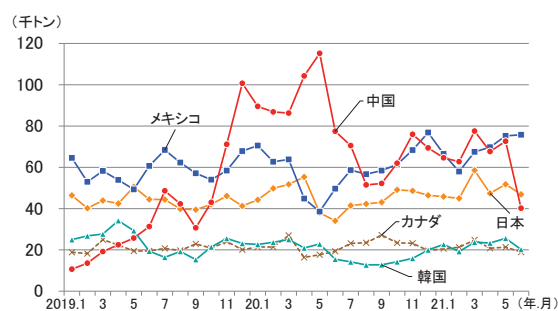
注1：枝肉重量ベース。

注2：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

コロンビア向けは、コロナ禍で大きく落ち込んだ前年からの回復により同2.1倍となった。

USDAは、21年第3四半期の豚肉輸出量について前年同期をわずかに下回る一方、第4四半期は前年同期比5%増と見込んでおり、通年では前年比1.8%増と過去最高を更新すると予測している（8月時点）。

図13 米国の主要輸出先別豚肉輸出量の推移



資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 河村 侑紀)

E U

EU域外向けの豚肉輸出量の増加率が鈍化

5月の豚肉生産量は前年同月比5.4%増

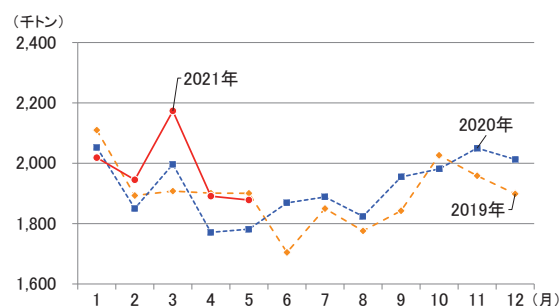
欧州委員会によると、2021年5月の豚肉生産量（EU27カ国）は、前年同月比5.4%増の187万8090トンとなった（図14）。また、と畜頭数は同5.0%増の1987万頭、1頭当たり枝肉重量は同0.4%増の94.5キログ

ラムとなった。同月の生産量を主要生産国別に見ると、ドイツ（同1.0%減）のみ前年同月を下回り、スペイン（同4.8%増）、フランス（同4.0%増）、ポーランド（同6.7%増）、デンマーク（同12.3%増）、オランダ（同10.9%増）、イタリア（同15.6%増）は前年同月を上回った（表6）。

英国農業・園芸開発委員会（AHDB）に

よると、ドイツの生産量が前年同月を下回ったのは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に伴う各種制限から外食などの国内需要の減退に加え、昨年9月以降散発しているアフリカ豚熱により、中国などアジア諸国を中心に輸入停止措置が取られていることが影響しているとしている。

図 14 豚肉月別生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

表 6 主要生産国別豚肉生産量の推移

(単位：千トン)

	2020年 5月	2021年 5月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1~5月)	
				2021年 (1~5月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	403	422	4.8%	2,204	5.0%
ドイツ	402	398	▲1.0%	2,114	▲1.7%
フランス	160	166	4.0%	915	0.8%
ポーランド	152	163	6.7%	848	7.7%
デンマーク	121	135	12.3%	733	14.5%
オランダ	121	134	10.9%	724	7.7%
イタリア	98	113	15.6%	575	13.9%
その他	326	348	6.6%	1,794	6.1%
合計	1,782	1,878	5.4%	9,906	4.8%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注：枝肉重量ベース。

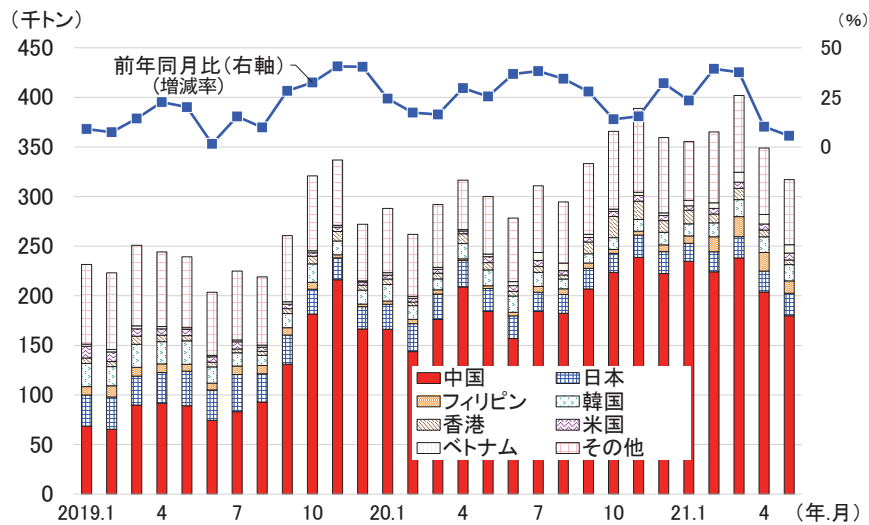
豚肉輸出量は中国向けが減少

欧州委員会によると、2021年5月のEU域外への豚肉(生鮮・冷蔵、冷凍)輸出量(EU27カ国)は、前年同月比5.7%増の31万7137トンと前年同月をやや上回った(図15)。

主要輸出先別に見ると、輸出量の56.7%を占める最大の輸出先である中国向け(同2.4%減)や、輸出量の7.3%を占め2番手となる日本向け(同2.1%減)が減少した。一方で、3番手以下の韓国向け(同2.9%増)、

フィリピン向け(同4.6倍)、ベトナム向け(同3.3倍)、米国向け(同17.4%増)は増加した。フィリピンとベトナム向けは、両国でのアフリカ豚熱の発生による豚肉供給不足に伴い、前年同月を上回って推移している。一方、中国向けは同国内の豚肉供給量の回復に伴い、輸出量は2カ月連続で前年同月を下回った。その結果、二桁の増加率で推移してきたEU域外向けの輸出量の伸びは鈍化し、増加率は前年同月を上回ったものの、20カ月ぶりに一桁となった。

図15 輸出先別豚肉輸出量および前年同月比(増減率)の推移(EU域外向け)



資料：欧州委員会「Eurostat」
注：製品重量ベース。

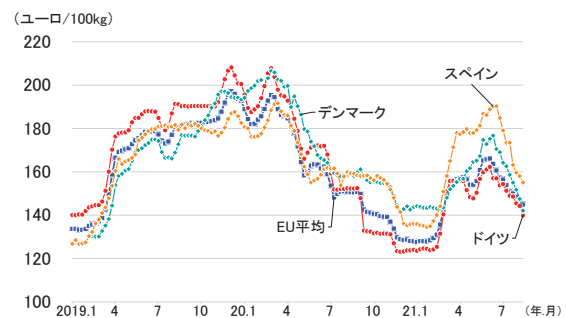
豚枝肉卸売価格は、10週連続で前週を下回る

欧州委員会によると、2021年7月の豚枝肉卸売価格(EU27カ国)は、前年同月比1.0%高の100キログラム当たり153.5ユーロ(2万109円：1ユーロ=131円)となった。同価格は、20年3月以降、COVID-19拡大による需要減退やドイツでのアフリカ豚熱の発生確認を受けて下落していた。その後、中国への輸出需要やCOVID-19に伴う規制が緩和され、外食需要などの回復もあり、本年1月以降は上昇基調にあったが、7月は前月比でマイナスとなった。

同価格の動向を週ごとに見ると、6月14日の週を境に下落傾向に転じ、直近8月16日の週は10週連続で前週を下回り前週比1.3%安の同144.92ユーロ(1万8985円)となった(図16)。

現地報道によると、同価格の下落要因について、夏の豚肉需要が予想よりも低調となったことや中国向けの輸出量の減少が挙げられている。中国向けの輸出量が2カ月連続で前年同月を下回る中、ドイツの供給過多による国内価格の下落がEU域内の他の豚肉輸出国の価格を引き下げているとの指摘もあり、今後の同価格の推移が注目されている。

図16 豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」
注1：EU参考価格(CLASS E)。
注2：デンマークの2020年2月17日はデータなし。

(調査情報部 小林 智也)

鶏肉

ブラジル

生産コスト大幅上昇の一方で、鶏肉輸出量は増加傾向で推移

1～6月の鶏肉輸出量、前年同期比5.0%増

ブラジル経済省貿易事務局（SECEX）によると、2021年1～6月の鶏肉輸出量は、前年同期比5.0%増の205万575トンと前年

をやや上回った（表7）。鶏肉輸出は、飼料価格高により生産コストが上昇しているものの、米ドルに対するレアル安の為替相場など、輸出に有利な状況から増加傾向で推移している（図17）。

表7 輸出先別鶏肉輸出量および輸出額の推移

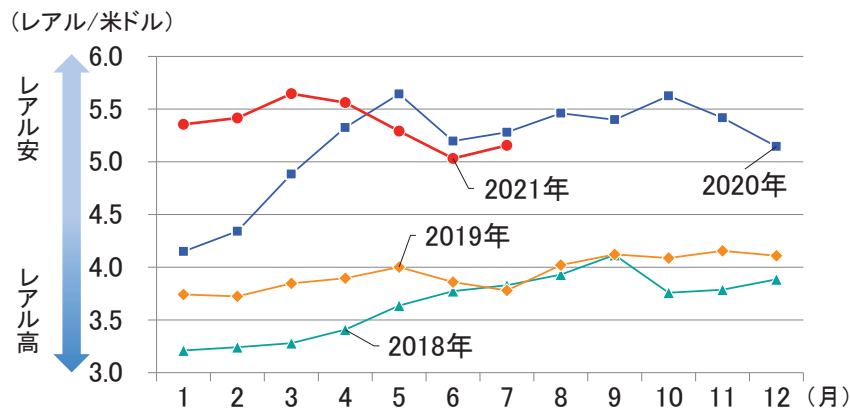
区分	2020年（1～6月）			2021年（1～6月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	346,051	681,291	1,969	314,732	589,067	1,872	▲9.1%	▲13.5%	▲4.9%
サウジアラビア	204,306	306,175	1,499	230,020	396,195	1,722	12.6%	29.4%	14.9%
日本	203,576	356,410	1,751	195,340	355,883	1,822	▲4.0%	▲0.1%	4.1%
南アフリカ共和国	124,384	56,241	452	157,768	103,651	657	26.8%	84.3%	45.3%
アラブ首長国連邦	153,378	225,820	1,472	147,046	239,171	1,627	▲4.1%	5.9%	10.5%
フィリピン	43,790	28,690	655	81,260	72,762	895	85.6%	153.6%	36.7%
イエメン	57,586	93,212	1,619	57,685	99,068	1,717	0.2%	6.3%	6.1%
香港	52,510	64,760	1,233	57,540	85,124	1,479	9.6%	31.4%	20.0%
その他	766,978	1,044,150	1,361	809,184	1,172,237	1,449	5.5%	12.3%	6.4%
合計	1,952,559	2,856,748	1,463	2,050,575	3,113,158	1,518	5.0%	9.0%	3.8%

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注2：製品重量ベース。

図17 為替相場（米ドルに対するレアル）の推移



資料：三菱UFJリサーチ&コンサルティング「現地参考為替相場」

注：各月の平均Sellingレートの推移。

輸出先別に見ると、最大の中国向けは、同9.1%減の31万4732トンと前年をかなりの程度下回った。同国向けは20年10月以降前年同月を下回る月が多くなっているが、依然ブラジル産鶏肉への引き合いは強く、21年に入ってからも毎月4万6000～5万6000トン輸出されている。

中国に次ぐ輸出先であるサウジアラビア向けは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により20年前半に減少したものの、その後回復し、21年1～6月は同12.6%増の23万20トンとかなり大きく増加した。しかし、サウジアラビア食品医薬品庁（SFDA）は本年5月、ブラジルの11の鶏肉処理場からの輸入を停止することを決定した。報道によると、停止措置の理由は明らかにされていないが、同措置は5月23日から適用されており、今後の輸出への影響が懸念されている。なお、当該鶏肉処理場からの輸出は、同国向け輸出量の60%を占めるとされている。

また、日本向けは比較的安定しており、同4.0%減の19万5340トンとなった。このほか、南アフリカ共和国およびフィリピン向けが、前年同期を大幅に上回っている。

7月のトウモロコシ卸売価格、1年間で約2倍に上昇

ブラジル農牧研究公社（EMBRAPA）養鶏・養豚センター（CIAS）によると、最大の鶏肉生産州であるパラナ州のブロイラー生産コスト指数（2010年1月の生産コストを100とした指数）は、引き続き上昇基調で推移している。同指数は、18年4月から19年9月ごろまで220ポイント前後で推移していたが、その後上昇傾向で推移し、21年

7月には400.8ポイント（前年同月比50.7%高）となった（図18）。

図18 パラナ州のブロイラー生産コスト指数の推移

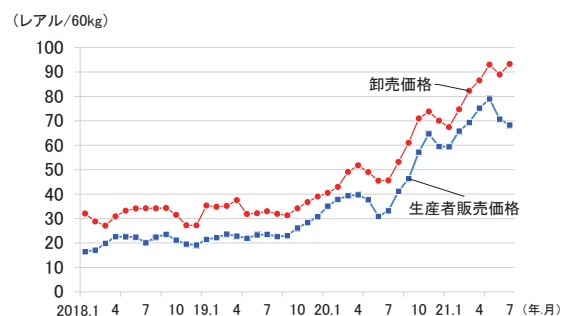


資料：ブラジル農牧研究公社（EMBRAPA）
注：2010年1月の生産コストを100ポイントとしている。

鶏肉生産コストの約7割は飼料費が占めるが、トウモロコシの卸売価格（マットグロッソ州）は、19年10月ごろから上昇傾向で推移し、21年7月には、前年同月比104.4%高の60キログラム当たり93.3リアル（2053円：1リアル=22円）と約2倍に上昇した（図19）。これは、国内外からのトウモロコシの需要が堅調であることに加え、主要生産地における降水量不足や中南部での霜や低温などの影響でトウモロコシの生産量が大きく下方修正されたことも影響しているとみられる（注）。

（注） 海外情報「2020/21年度主要穀物の生産状況等の調査結果（第11回）を公表（ブラジル）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003019.html)を参照されたい。

図19 マットグロッソ州のトウモロコシ相場の推移



資料：ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）

鶏肉卸売価格は依然上昇傾向で推移し記録的高値

サンパウロ大学農学部応用経済研究所(CEPEA)によると、ブラジルの鶏肉卸売価格(サンパウロ州、名目価格)は、同国内でCOVID-19が拡大し始めた2020年3月から5月ごろにかけて下落し、1キログラム当たり3.8レアル(84円)程度となった。その後は、堅調な需要を背景に上昇傾向で推移している(図20)。21年8月には同8.4レアル(185円)と統計が開始された04年以降の最高値を更新した。

報道によると、世界最大の鶏肉輸出会社で鶏肉および豚肉処理事業などを展開する大手食品会社BRFの21年第2四半期決算は、飼料穀物高などのコスト高の影響で収益性が悪化したとしている。売り上げの50%以上を

占める国内市場向けでは、販売量および販売価格はわずかに増加したものの、販売コストが大幅に増加した。また、輸出向けについても、米国向けは販売価格への転嫁が実現したものの、他の特定の輸出先市場においては鶏肉の在庫水準が高く、販売価格への転嫁が十分にできなかったためとしている。

図20 サンパウロ州の鶏肉卸売価格(丸鶏・冷蔵)の推移



(調査情報部 井田 俊二)

中国

2021年上半期の生産量は増加し、豚肉回帰で価格は下落傾向

2021年上半期の家きん肉生産量は前年増

中国農業農村部より発表された今年度の中国農業展望報告(2021-2030)によると、2021年の家きん肉の生産量は前年比3.0%増の2432万トンと見込まれている。また、中国国家统计局によると、21年上半期(1~6月)の家きん肉生産量は前年同期比5.8%増の1075万トンとなった。

中国では、18年8月に発生が確認され、その後拡大したアフリカ豚熱により豚肉生産量が大きく減少し、20年から21年上半期を

中心として豚肉の代替需要が喚起されたことから、家きん肉の生産規模が拡大したとみられている。

このような中、米国農務省海外農業局(USDA/FAS)は、21年の中国の鶏肉生産量(注)を前年比4.1%減の1400万トンと減産の予測をしている(表8)。これは、豚肉が同国の食生活に深く浸透し、政府による支援などで企業養豚などが急速に飼養頭数の回復を図った結果、21年に入り豚肉価格が下落し、需要が鶏肉から豚肉へと徐々に戻りつつあること、また、飼料価格が高騰する中で生体鶏価格が下落しており、中小規模の生産

者を中心に利益の確保が困難になっていることが要因とされる。

(注) 同国では、家きん肉生産量のうち約6割が鶏肉であるとされている。鶏肉の生産割合については『畜産の情報』2020年5月号「中国の肉用鶏産業の現状と鶏肉需給の見通し」(https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_001123.html)を参照されたい。

表8 中国の鶏肉需給

(単位：万トン)

	2018年	2019年	2020年	2021年 (予測)
生産量	1,170	1,375	1,460	1,400
輸入量	34	58	100	90
輸出量	45	43	39	43
国内消費量	1,160	1,390	1,521	1,448

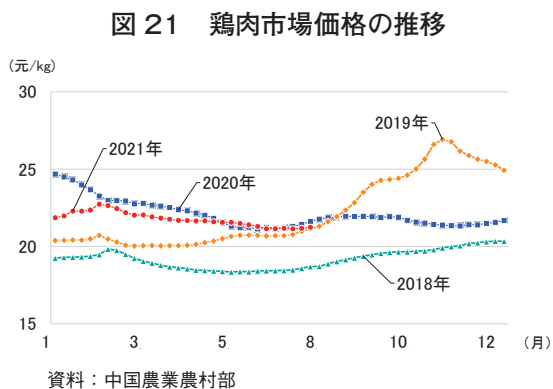
資料：米国農務省海外農業局 (USDA/FAS)

注1：調理用換算 (Ready to Cook Equivalent)。

注2：もみじ (鶏足) は含まない。

2月の春節以降、鶏肉価格は下落

食肉の需要期となる2021年の春節(2021年は2月11～17日)を過ぎ、家きん肉の増産や豚肉需要の回復などから、3月以降の鶏肉価格は下落傾向で推移している(図21)。



そのような中、飼料価格の高騰などを要因とした収益性の悪化により、経営体力の弱い中小規模の生産者を中心に淘汰が進むことが

予想され、22年には経営体力の勝る大規模生産者の拡大が進むと見込まれている。

米国からの冷凍鶏肉輸入量が増加するも、全体としては前年並み

中国国内の鶏肉需要が落ち着く中で、2021年1～7月の冷凍鶏肉輸入量は前年並みの82万1024トンとなった(表9)。輸入先別に見ると、製品の大きさや品質の高さから、もみじの主要な輸入先である米国は27万7922トン(前年同期比72.0%増)と前年を大幅に上回ったものの、ブラジルやロシア、タイなどの主要輸入先は前年を下回る数量となった。今後、物流改善による冷凍コンテナ不足の解消や鶏肉輸入に対する新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の検疫体制が整備されていくにつれ、22年の輸入量は価格優位性を背景に前年を上回ると見込まれている。

表9 輸入先別輸入量の推移 (冷凍鶏肉)

(単位：千トン)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年 (1~7月)	前年同期比 (増減率)
ブラジル	382.1	421.4	537.5	685.6	344.9	▲ 14.8%
米国	—	—	—	409.1	277.9	72.0%
ロシア	—	—	34.4	144.5	66.9	▲ 24.3%
タイ	—	16.8	71.0	117.3	61.0	▲ 16.4%
アルゼンチン	51.9	46.1	77.4	87.0	39.5	▲ 24.2%
その他	15.4	16.6	54.0	70.6	30.9	▲ 24.4%
合計	449.4	500.9	774.3	1,514.1	821.0	0.0%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは020714。

鶏肉調製品輸出量は輸入国の需要増により増加

2021年1～7月の鶏肉調製品の輸出量は、14万4054トン（前年同期比10.2%増）と前年をかなりの程度上回った（表10）。最大の輸出先である日本向けは9万6876トン（同0.4%増）とわずかながら増加し、その他の輸出先でも前年を上回ったところが多

い。特にフィリピン向けは、COVID-19の影響による需要減退を背景に昨年から同国の鶏肉生産量が減少しており、21年第1四半期は前年同期比11.2%減と大きく減少していること、また、同国の主要輸入先であるEUでの鳥インフルエンザの発生によりEU産鶏肉の輸入が減少していることから、大きく輸出を伸ばしている。

表10 輸出先別輸出量の推移 (鶏肉調製品)

(単位：千トン)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年 (1~7月)	前年同期比 (増減率)
日本	194.6	209.9	192.8	161.2	96.9	0.4%
香港	23.2	25.7	28.5	29.7	20.8	36.8%
オランダ	8.1	11.2	13.3	10.0	6.9	20.2%
フィリピン	0.0	0.1	0.1	4.1	5.0	1,142.7% (約12.4倍)
英国	4.1	7.0	8.9	6.1	3.5	▲ 5.4%
その他	11.7	15.3	17.7	15.6	11.0	19.2%
合計	241.9	269.2	261.3	226.8	144.1	10.2%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード160232。

(調査情報部 海老沼 一出)

牛乳・乳製品

E U

第2四半期の生乳生産量は前年同期を上回る

6月の生乳出荷量は、前年同月を0.8%上回る

欧州委員会によると、2021年6月の生乳出荷量（EU27カ国）は前年同月をわずかに上回る1253万3120トン（前年同月比0.8%増）となった（表11）。

6月の出荷量を国別に見ると、最も多いドイツ（同1.3%減）が前年同月を下回った一方、フランス（同0.8%増）、オランダ（同0.4%増）、アイルランド（同3.7%増）、ポーランド（同0.7%増）、イタリア（同5.0%増）、スペイン（同0.4%増）など主要生産国の多

くが前年同月を上回った。

生乳出荷量を四半期ごとに見ると、第1四半期は寒波の影響から前年同期を下回ったものの、第2四半期は、天候が回復し、5月の降雨で牧草の生育状況が良好となったことから前年同期を上回った。この結果、本年上半期（1～6月）の生乳出荷量は前年同期並みとなった（図22）。

欧州委員会は、通年では前年比0.8%増と前年を上回ると予測しているため、下半期は前年同期を上回って推移していくものとみられる。

表 11 主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：千トン）

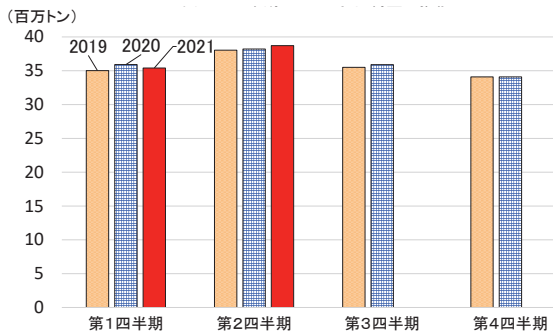
	2020年 6月	2021年 6月	前年同月比 (増減率)	2021年	前年同期比
				(1～6月)	(増減率)
ドイツ	2,746	2,710	▲1.3%	16,393	▲1.7%
フランス	2,020	2,036	0.8%	12,696	▲1.5%
オランダ	1,155	1,159	0.4%	7,040	▲1.3%
アイルランド	1,062	1,101	3.7%	4,814	7.2%
ポーランド	1,070	1,078	0.7%	6,387	0.5%
イタリア	980	1,029	5.0%	6,350	3.6%
スペイン	627	629	0.4%	3,800	▲0.1%
デンマーク	475	476	0.2%	2,830	▲0.7%
ベルギー	374	375	0.2%	2,260	▲0.1%
その他	1,931	1,941	0.5%	11,548	0.1%
合計	12,439	12,533	0.8%	74,116	▲0.0%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

図 22 四半期ごとの生乳出荷量の推移



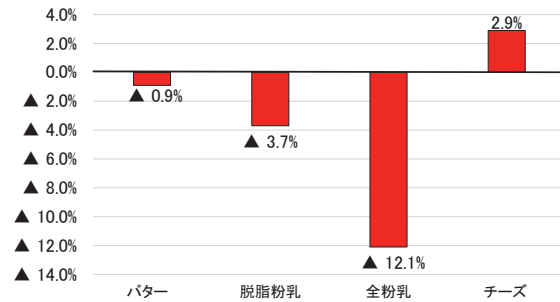
資料：欧州委員会「Eurostat」
注1：速報値。
注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

上半期は、チーズの生産量のみ前年同期を上回る

欧州委員会によると、2021年上半期(1～6月)のEUの主要な乳製品の生産量は、チーズが前年同期比2.9%増となった一方で、バター(同0.9%減)、脱脂粉乳(同3.7%減)、全粉乳(同12.1%減)はいずれも減少した(図23)。生乳出荷量が前年同期並みである中、輸出需要などを背景にチーズに仕向けられる生乳の割合が高まったことで、他の乳製品への仕向け割合が減少し、これら乳製品の生産量は前年同期を下回ったものとみられる。なお、通年ではいずれの乳製品の生産量も前年

を上回ると予想されているため、生乳出荷量の増加に伴って各乳製品の生産量も増加傾向で推移するとみられている。

図 23 主要な乳製品生産量(2021年1～6月)の対前年同期比(増減率)



資料：欧州委員会「Eurostat」

チーズの輸出量は米国向けが前年同期を大幅に上回る

欧州委員会によると、2021年上半期(1～6月)の英国を除くEU域外向けの乳製品輸出量は、チーズが47万9482トン(前年同期比7.2%増)と前年同期を上回った一方で、脱脂粉乳が41万4771トン(同0.3%減)と前年同期並み、全粉乳が14万4471トン(同7.8%減)、バターが9万2618トン(同20.7%減)と前年同期を下回った(表12)。

表 12 主な乳製品別輸出量(英国を除く)の推移

(単位：千トン)

輸出先	脱脂粉乳			輸出先	チーズ			輸出先	全粉乳			輸出先	バター		
	2020年(1～6月)	2021年(1～6月)	前年同期比(増減率)		2020年(1～6月)	2021年(1～6月)	前年同期比(増減率)		2020年(1～6月)	2021年(1～6月)	前年同期比(増減率)		2020年(1～6月)	2021年(1～6月)	前年同期比(増減率)
中国	56	71	26.7%	米国	52	62	18.1%	オマーン	25	26	3.5%	米国	22	20	▲9.9%
アルジェリア	76	48	▲36.4%	日本	64	60	▲6.6%	中国	7	12	66.9%	中国	7	11	40.5%
インドネシア	20	39	91.5%	スイス	35	38	7.5%	ナイジェリア	13	11	▲19.4%	韓国	4	5	29.9%
フィリピン	15	24	58.6%	韓国	29	27	▲8.7%	アルジェリア	13	6	▲52.6%	サウジアラビア	11	4	▲59.9%
エジプト	26	21	▲18.9%	ウクライナ	21	24	11.8%	UAE	6	5	▲13.4%	台湾	3	3	18.8%
その他	224	213	▲4.9%	その他	245	270	10.0%	その他	92	85	▲7.8%	その他	69	49	▲28.9%
合計(英国を除く)	416	415	▲0.3%	合計(英国を除く)	447	479	7.2%	合計(英国を除く)	157	144	▲7.8%	合計(英国を除く)	117	93	▲20.7%

資料：欧州委員会「Milk market observatory」

チーズの輸出量は、日本向け(同6.6%減)、韓国向け(同8.7%減)が前年同期を下回った一方で、米国向け(同18.1%増)、スイス向け(同7.5%増)、ウクライナ向け(同11.8%増)が前年同期を上回った。米国とEUとの間で貿易紛争となっていた航空機補助金をめぐる追加関税措置において、米国側がEU産チーズを対象品目の一つとしていたが、本年3月に双方で追加関税措置の4カ月

間の一時停止が合意され、その後、5年間は同措置を停止することで合意に至った^(注)。今回の米国向けチーズ輸出量の増加は、この合意が即座に反映された結果とみられる。

(注) 海外情報「EUと米国、航空機補助金を巡る追加関税措置の停止を合意(EU)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002968.html)を参照されたい。

(調査情報部 小林 智也)

豪州

2021/22年度の生乳生産量、3年ぶりに前年度より増加

2020/21年度の生乳生産量はわずかに増加

デーリー・オーストラリア(DA)によると、2020/21年度(7月~翌6月)の最終月となる21年6月の生乳生産量は、酪農主

産地であるビクトリア州およびタスマニア州がいずれも減少したことを受け、62万1386キロリットル(64万28トン相当)と前年同月よりわずかに減少した(前年同月比1.1%減、表13、図24)。

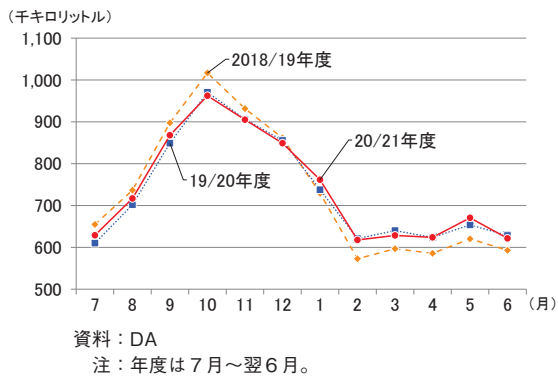
表13 州別の生乳生産量の推移

(単位：千キロリットル)

州名	2020年 6月	2021年 6月	前年同月比 (増減率)	2020/21年度 (7月~翌6月)	
				2020/21年度 (7月~翌6月)	前年同期比 (増減率)
ビクトリア州	411.7	403.0	▲2.1%	5,646.6	0.4%
ニューサウスウェールズ州	83.5	86.1	3.0%	1,074.9	2.0%
タスマニア州	43.2	41.1	▲4.7%	961.0	1.2%
南オーストラリア州	35.6	37.0	3.8%	499.4	2.2%
西オーストラリア州	30.0	29.7	▲1.1%	361.9	▲0.7%
クイーンズランド州	24.1	24.5	1.6%	309.5	▲1.9%
合計	628.2	621.4	▲1.1%	8,853.3	0.6%

資料：DA

図 24 生乳生産量の推移

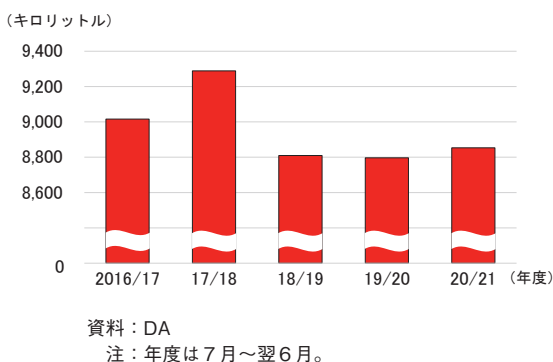


この結果、20/21年度の累計生乳生産量^(注1)は前年度比0.6%増の885万3287キロリットル(911万8885トン相当)となり、DAが3月に発表した同年度の生乳生産量見込み「-1%から1%の間」^(注2)と合致した結果となった(図25)。なお、豪州の生乳生産量が前年度より増加するのは3年ぶりである。

(注1) 海外情報「2020/21年度の生乳生産、3年ぶりに増加(豪州)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003042.html)を参照されたい。

(注2) 『畜産の情報』2021年6月号「乳製品輸出量、主要4品目いずれも前年同月を上回る」(https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_001670.html)を参照されたい。

図 25 生乳生産量の推移



今後の生乳生産見通しについては、DAが21/22年度はわずかに増加する(20/21年

度比で0~2%増)との見込みを公表^(注3)している。また、米国農務省(USDA)も、7月16日に発表した「Dairy: World Markets and Trade」で、2021年(1~12月)の豪州の生乳生産量を、前年よりわずかに増加すると見込んでいるものの、前回公表(20年12月18日)の940万トン(20年比3%増)から920万トン(同1%増)に2ポイント下方修正した。これについてUSDAは、堅調な乳価に後押しされ、本来であれば増産が期待されるところ、記録的な肉牛価格の高騰に伴い、一部の酪農生産者が肉用牛生産への転換を図るなど頭数規模の縮小が見られていることを要因として挙げている。また、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に伴う入国制限による労働力不足なども生乳生産の拡大を阻害する要因とみている。

(注3) 海外情報「2021/22年度の生乳生産見通し、収益は改善も生産は伸び悩み(豪州)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002999.html)を参照されたい。

20/21年度の乳製品輸出はおおむね好調

DAが発表した2021年6月の主要乳製品4品目の輸出量は、脱脂粉乳とチーズは前年同月より大幅に減少した一方、全粉乳とバターおよびバターオイルは大幅に増加した(表14、図26)。また、2020/21年度累計(7月~翌6月)では、絶対量は少ないものの、バターおよびバターオイルが前年度比2倍を超える輸出量となった。

品目別に見ると、脱脂粉乳は、中国をはじめとしたアジア向け輸出の減少などを受け、6月単月では6489トンと前年同月から半減

した（前年同月比47.7%減）が、年度累計では12万3415トンとかなり大きく増加した（前年度比14.7%増）。これは、中国向け輸出の伸びなどにより、単月実績としては直近5カ年度の中で4番目に高い水準となった2月の輸出量（1万7324トン、前年同月比94.3%増）がけん引した結果といえる。バ

ターおよびバターオイルは、6月単月では1850トンと大幅に増加し（同30.5%）、年度累計でも、中国をはじめとしたアジア向け輸出の伸びなどを反映して前年比約2.1倍の2万3909トンと倍増した。この結果、20/21年度は、直近5カ年度で初めて、年度内すべての月で前年同月の実績を上回った。

表 14 主要乳製品輸出量の推移

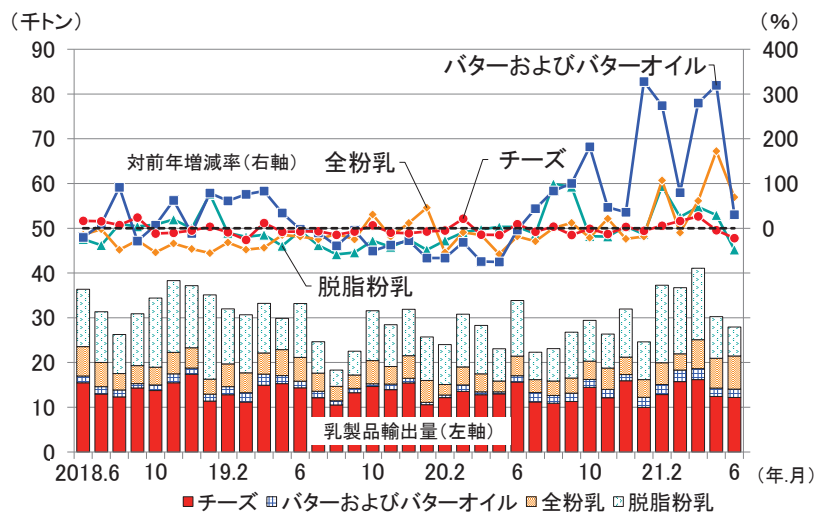
(単位：トン)

品目	2020年 6月	2021年 6月	前年同月比 (増減率)	2020/21年度 (7月～翌6月)	
				2020/21年度 (7月～翌6月)	前年度比 (増減率)
脱脂粉乳	12,411	6,489	▲ 47.7%	123,415	14.7%
全粉乳	4,374	7,406	69.3%	55,214	18.6%
バターおよび バターオイル	1,418	1,850	30.5%	23,909	111.7% (約 2.1 倍)
チーズ	15,643	12,194	▲ 22.0%	155,235	▲ 1.5%

資料：DA

注：製品重量ベース。

図 26 主要乳製品輸出量および増減率の推移



資料：DA

注：製品重量ベース。

(調査情報部 阿南 小有里)

7月の生乳生産量は前年比増、8カ月連続で前年同月を上回る

7月の生乳生産量は、前年同月比6.6%増

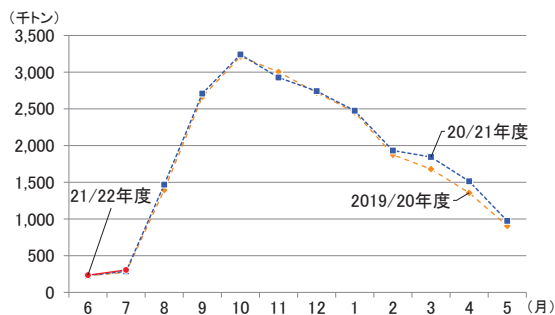
ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2021年7月の生乳生産量は30万5000トン（前年同月比6.6%増）とかなりの程度増加し、20年12月以降、8カ月連続で前年同月を上回った（図27）。冬期（6～8月）の間、酪農主産地である北島では好天に恵まれ放牧環境が良好であったことに加え、南島では6月中旬にカンタベリー地方において洪水が発生したものの、洪水が起る前は乾燥傾向にあったため、雨が牧草の生育

を助長したとみられている。現地報道によると、今冬の温暖な気候により、秋期（3～5月）に分娩を終えた牛群が良好な環境を享受したことで、これらの牛群の生産量が平均を上回ったことが増産に寄与したとされている。

7月のチーズ輸出は大幅に増加、粉乳輸出も引き続き好調

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2021年7月の乳製品主要4品目の輸出量は、バターおよびバターオイルが前年同月を下回る一方、脱脂粉乳、全粉乳、チーズは前年同月を上回った（表15、図28）。

図 27 生乳生産量の推移



資料：DCANZ
注：年度は6月～翌5月。

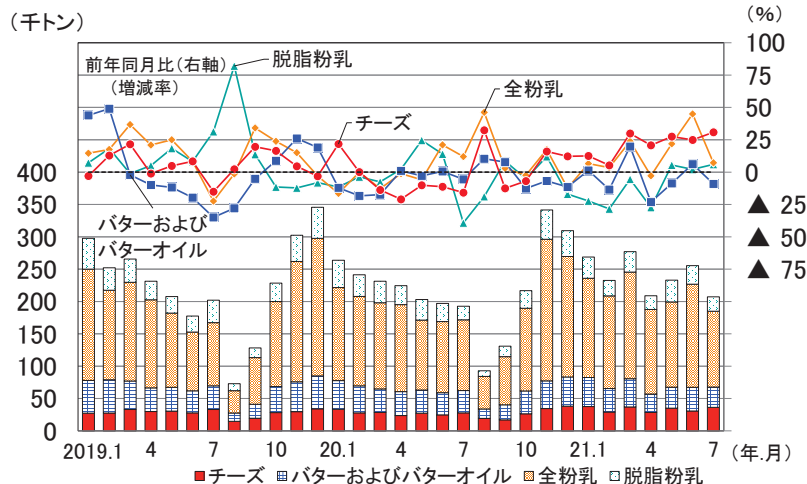
表 15 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

	2020年 7月	2021年 7月	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	21,126	22,382	5.9%
全粉乳	109,229	117,134	7.2%
バターおよび バターオイル	34,668	31,506	▲9.1%
チーズ	27,724	36,275	30.8%

資料：Stats NZ
注1：製品重量ベース。
注2：年度は7月～翌6月。

図 28 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ
注：製品重量ベース。

脱脂粉乳については、2万2382トン（前年同月比5.9%増）とやや増加し、3カ月連続で前年同月を上回った。輸出先別では中国向けが同16.4%減と大幅な減少となったものの、マレーシアやフィリピンなど東南アジア向けが大幅に増加した。

全粉乳は、11万7134トン（同7.2%増）とかなりの程度増加した。中国向けが4万4034トン（同18.7%増）と大幅に増加したほか、アラブ首長国連邦向けなども増加した。

さらに、チーズは、3万6275トン（同30.8%増）と大幅に増加した。韓国や豪州向けは減少したものの、日本向け（同38.5%増）、中国向け（同19.9%増）がそれぞれ大幅に増加した。

一方、バターおよびバターオイルは、3万1506トン（同9.1%減）と前年同月を下回っ

た。中国向けは同15.1%増とかなり大きく増加したものの、米国、日本向けが大幅に減少したことが影響した。

乳製品国際価格は、全粉乳を除く3品目が前回から上昇

2021年8月17日に開催されたグローバルデイリートレード（GDT：月2回開催されるフォンテラ社主催の電子オークション。乳製品の国際価格の指標とされる）の乳製品主要4品目の1トン当たり平均取引価格は、以下の通りとなった（表16、図29）。前回開催（同年8月3日）時との比較では、脱脂粉乳は前回比1.1%高とわずかに上昇したほか、バターは同4.0%高、チーズは同2.9%高となった。一方、全粉乳は同1.3%安とわずかに下落した。

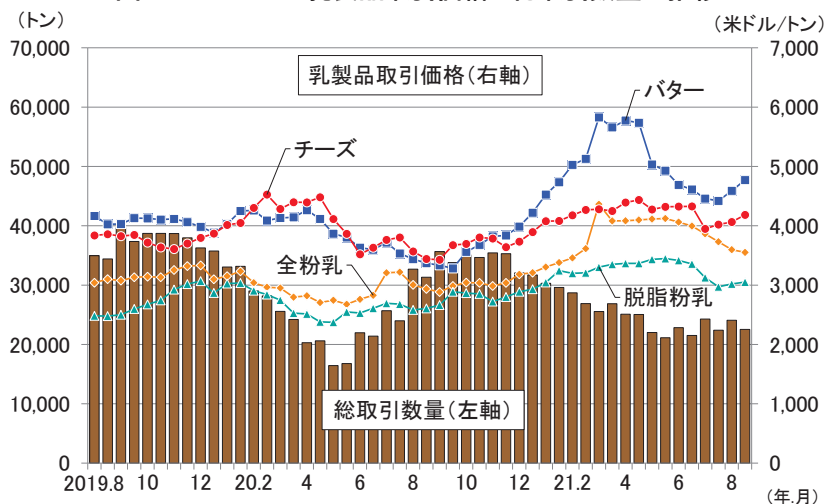
表 16 GDT乳製品取引価格（2021年8月17日開催）

（単位：米ドル/トン、万円/トン）

品目	価格		前年比 (騰落率)	前回比 (騰落率)
	米ドル	万円		
脱脂粉乳	3,052	33.9	17.0%	1.1%
全粉乳	3,552	39.4	21.0%	▲1.3%
バター	4,771	53.0	41.6%	4.0%
チーズ	4,184	46.4	21.6%	2.9%

資料：GDT
注1：1米ドル=111円として計算。
注2：前回は8月3日に開催。

図 29 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

脱脂粉乳の価格は、前回比1.1%高の1トン当たり3052米ドルであった。中国など北アジア^(注)からの旺盛な需要が続く中、市場では8月の同3000米ドル台から2022年3月には同3200米ドル台まで着実に上昇すると予想されている。

全粉乳は、前回比1.3%安の同3552米ドルと6月以降、前回比で価格の下落が続いている。EU、中東、南米、アフリカからの買いは前回を上回ったものの、北アジアからの買いが前回より弱かったことが影響したとみられている。

バターは、前回比4.0%高の同4771米ド

ルであった。北アジアの買いが前回からわずかに増加したほか、アフリカからの買いが大幅に増加し、北アジアに次ぐ2番目の購入量になったとされている。

チーズは、前回比2.9%高の同4184米ドルとわずかに上昇した。北アジアからの買いが引き続き好調であったことが要因とされている。

(注) ニュージーランド外務貿易省は、中国、日本、香港、韓国、台湾を北アジアとしている。

(調査情報部 廣田 李花子)

飼料穀物

トウモロコシ

2021/22年度の世界のトウモロコシ生産量、前年度からかなりの程度増加する見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2021年8月12日、2021/22年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表17）。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は前回から868万トン下方修正され、11億8612万トン（前年度比6.3%増、前月比0.7%減）と予測された。国別に見るとブラジル（前年度比35.6%増）およびウクライナ（同28.7%増）では記録的な生産増が予測され、米国（同4.0%増）、アルゼンチン（同5.2%増）および中国（同2.8%増）でも過去最高水準に近い生産が見込まれている。

輸出量は、世界全体で1億9785万トン（同10.8%増、同0.5%減）と前回からわずかに下方修正された。国別に見るとブラジル（前年度比87.0%増）とウクライナ（同36.2%増）で大幅な増加が見込まれるものの、米国

（同13.5%減）はこれら輸出国との競合により減少が見込まれている。

輸入量は、世界全体で1億8461万トン（同0.2%増、同1.6%減）と前回からわずかに下方修正された。国別に見ると、主要輸入国である中国は2600万トンと前年度から変わらないものの、引き続き高水準での推移が見込まれている。

消費量は123万トン下方修正されたものの、11億8224万トン（同3.6%増、同0.1%減）と前年度から増加が見込まれている。消費大国であるブラジル（前年度比7.4%増）、および中国（同1.7%増）などで増加するものの、米国ではほぼ横ばい（同0.1%増）と見込まれている。

期末在庫は、2021/22年度の世界生産量の下方修正などに伴い、前月から2.2%減の2億8463万トン（同1.4%増）と見込まれている。

表 17 主要国のトウモロコシの需給見通し (2021年8月12日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度		
			(7月予測)	(8月予測)	前年度比 (増減率)
米 国					
期首在庫	56.41	48.76	27.48	28.37	▲ 41.8%
生産量	345.96	360.25	385.21	374.68	4.0%
輸入量	1.06	0.64	0.64	0.64	0.0%
消費量	309.55	310.78	313.45	311.16	0.1%
輸出量	45.13	70.49	63.50	60.96	▲ 13.5%
期末在庫	48.76	28.37	36.37	31.56	11.2%
アルゼンチン					
期首在庫	2.37	3.62	2.12	1.92	▲ 47.0%
生産量	51.00	48.50	51.00	51.00	5.2%
輸入量	0.00	0.01	0.01	0.01	0.0%
消費量	13.50	13.70	14.50	14.50	5.8%
輸出量	36.25	36.50	36.00	36.00	▲ 1.4%
期末在庫	3.62	1.92	2.63	2.43	26.6%
ブラジル					
期首在庫	5.31	5.23	5.23	4.73	▲ 9.6%
生産量	102.00	87.00	118.00	118.00	35.6%
輸入量	1.65	3.50	1.70	1.70	▲ 51.4%
消費量	68.50	68.00	73.00	73.00	7.4%
輸出量	35.23	23.00	43.00	43.00	87.0%
期末在庫	5.23	4.73	8.93	8.43	78.2%
ウクライナ					
期首在庫	0.89	1.48	0.89	0.89	▲ 39.9%
生産量	35.89	30.30	37.50	39.00	28.7%
輸入量	0.03	0.02	0.02	0.02	0.0%
消費量	6.40	7.40	6.80	6.80	▲ 8.1%
輸出量	28.93	23.50	30.50	32.00	36.2%
期末在庫	1.48	0.89	1.11	1.11	24.7%
中 国					
期首在庫	210.16	200.53	198.18	198.18	▲ 1.2%
生産量	260.78	260.67	268.00	268.00	2.8%
輸入量	7.60	26.00	26.00	26.00	0.0%
消費量	278.00	289.00	294.00	294.00	1.7%
輸出量	0.01	0.02	0.02	0.02	0.0%
期末在庫	200.53	198.18	198.16	198.16	▲ 0.0%
世界計					
期首在庫	322.56	306.26	279.86	280.75	▲ 8.3%
生産量	1,118.56	1,115.41	1,194.80	1,186.12	6.3%
輸入量	167.59	184.21	187.66	184.61	0.2%
消費量	1,134.86	1,140.92	1,183.47	1,182.24	3.6%
輸出量	172.40	178.50	198.84	197.85	10.8%
期末在庫	306.26	280.75	291.18	284.63	1.4%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

2021/22年度の米国トウモロコシ期末在庫率、8%台の見込み

USDA/WAOBは2021年8月12日、2021/22年度（9月～翌8月）の米国の主要農作物需給予測値を更新した。このうち、同国のトウモロコシ需給見通しは次の通りである（表18）。

生産量は作付面積や単収の増加を受けて147億5000万ブッシェル（3億7466万トン^{（注）}、前年度比4.0%増）と予測されており、前月からわずかに下方修正されたものの、これまでの統計で最も生産量の多かった2016/17年度の151億4800万ブッシェル（3億8477万トン）に近い水準となっている。

消費量は飼料など向けの需要がわずかに下方修正され、全体では122億5000万ブッシェル（3億1116万トン、同0.1%増）と予測された。

輸出量は生産量の下方修正に伴い前月から

1億ブッシェル引き下げられ、24億ブッシェル（6096万トン、同13.5%減）と記録的な輸出量となった前年度からかなり大きく減少すると予測された。

期末在庫は、総供給量の下方修正を受けて前月から1億9000万ブッシェル引き下げられ、12億4200万ブッシェル（3155万トン、同11.2%増）と予測された。その結果、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は前月から1.1ポイント減の8.5%（同1.1ポイント増）となった。

また、生産者平均販売価格はわずかに上方修正され、1ブッシェル当たり5.75米ドル（638円。1キログラム当たり25.1円）と予測された。

（注） 1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

表 18 米国のトウモロコシの需給見通し（2021年8月12日米国農務省公表）

区分	－単位－	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度			
				(7月予測)	(8月予測)	参考(換算値)	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	89.7	90.8	92.7	92.7	37.5 (百万ヘクタール)	2.1%
収穫面積	(百万エーカー)	81.3	82.5	84.5	84.5	34.2 (百万ヘクタール)	2.4%
単収	(ブッシェル/エーカー)	167.5	172.0	179.5	174.6	11.0 (トン/ヘクタール)	1.5%
生産量	(百万ブッシェル)	13,620	14,182	15,165	14,750	374.66 (百万トン)	4.0%
輸入量	(百万ブッシェル)	42	25	25	25	0.64 (百万トン)	0.0%
期首在庫	(百万ブッシェル)	2,221	1,919	1,082	1,117	28.37 (百万トン)	▲41.8%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,883	16,127	16,272	15,892	403.67 (百万トン)	▲1.5%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,186	12,235	12,340	12,250	311.16 (百万トン)	0.1%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,900	5,725	5,725	5,625	142.88 (百万トン)	▲1.7%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,286	6,510	6,615	6,625	168.28 (百万トン)	1.8%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	4,857	5,075	5,200	5,200	132.09 (百万トン)	2.5%
輸出量	(百万ブッシェル)	1,777	2,775	2,500	2,400	60.96 (百万トン)	▲13.5%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,963	15,010	14,840	14,650	372.12 (百万トン)	▲2.4%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,919	1,117	1,432	1,242	31.55 (百万トン)	11.2%
期末在庫率	(%)	13.7	7.4	9.6	8.5		1.1ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	3.56	4.40	5.60	5.75	25.1 (円/kg)	30.7%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1エーカーは約0.4047ヘクタール。

(調査情報部 塩原 百合子)

大豆

2021/22年度世界の期末在庫、需要緩和で上方修正

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2021年8月12日、「Oilseeds: World Markets and Trade」で2021/22年度の世界の大豆需給予測値を、また、米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は同日、2021/22年度の世界の主要農作物需給予測値をそれぞれ更新した。

これによると、2021/22年度の世界の大豆生産量は前回から159万トン下方修正されたが、3億8363万トン（前年度比5.6%増）と前年度に続く記録的な水準が見込まれている（表19）。最大の生産国であるブラジルが過去最大とされるほか、主要生産国の米国やアルゼンチンも前年度を上回ると見込まれている。

輸出量は前回からわずかに下方修正されたが、1億7233万トン（同4.5%増）と前年度をやや上回ると見込まれている。最大の輸出国であるブラジルは、作付面積の拡大などに伴う生産増を背景に9300万トン（同12.7%増）と前年度をかなり大きく上回る一方、米国は、前年度からの繰越在庫量が少ないことや国内需要が強いことから5593万トン（同9.1%減）と前年度をかなりの程度下回ると見込まれている。

輸入量は前回からわずかに下方修正されたが、1億7061万トン（同3.6%増）と前年度をやや上回ると見込まれている。最大の輸入国である中国は、前回から100万トン下方修正の1億100万トン（同4.1%増）とされた。中国は、国内でのアフリカ豚熱発生後、減少した豚飼養頭数の回復に歩調を合わせる形で世界の大豆貿易をけん引してきた。しか

し、豚飼養頭数の増加が豚肉価格の下落を招いたことで、養豚生産に一定の抑制が生じ飼料需要は落ち着きを見せている。

消費量（搾油仕向け）は、前回より247万トン下方修正の3億2957万トン（同3.3%増）と見込まれている。最大の消費国である中国は前回から200万トン下方修正された。

期末在庫は、前回より166万トン上方修正の9615万トン（同3.6%増）とされ、2015/16年度以来の低水準となった2020/21年度からの回復が見込まれている。

中国、2021/22年度の輸入量は1億トン超と予測

中国農業農村部は8月12日、「2021年8月中国農産物需給状況分析」を公表した。この中で大豆について、2020/21年（10月～翌9月）の輸入量は9860万トンと前月分析から184万トン下方修正された。また、消費量（搾油仕向け）は養豚など飼料需要の減少を要因に9500万トンと前月分析から300万トン下方修正された。また、2021年の中国の大豆輸入価格（CIF価格）について、国際相場が高止まり傾向にある中で、海上輸送費の高騰から1トン当たり4100～4300元（7万684～7万4132円：1元=17.24円）と前月分析から同300元（5172円）上方修正された。一方、国産大豆の平均卸売価格については、1トン当たり5800～6000元（9万9992～10万3440円）と前月分析から変更はなく、輸入と国産との価格差は縮小している。

中国政府系機関の国家糧油情報センターは

8月5日、「油脂市場の需給状況に関する月報」を公表し、2021/22年度の中国の大豆供給量を1億2040万トンと予測し、うち1840万トンが国産大豆、1億200万トンが輸入大豆であるとした。また、消費量（搾油仕向け）は1億150万トン（前年度比300

万トン増）と予測し、うち160万トンが国産大豆、9990万トンが輸入大豆であるとした。そのほか食用等向けとして1738万トンの消費を見込んでいる。引き続き輸入量は増加傾向を示し、世界の大豆需給に与える影響が高まっている。

表 19 主要国の大豆需給見通し（2021年8月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度		前年度比 (増減率)	
			(7月予測)	(8月予測)		
米 国	期首在庫	24.74	14.28	3.66	4.34	▲ 69.6%
	生産量	96.67	112.55	119.88	118.08	4.9%
	輸入量	0.42	0.54	0.95	0.95	75.9%
	消費量	58.91	58.65	60.56	60.01	2.3%
	輸出量	45.70	61.51	56.47	55.93	▲ 9.1%
	期末在庫	14.28	4.34	4.22	4.21	▲ 3.0%
ブラジル	期首在庫	32.47	20.00	26.34	26.10	30.5%
	生産量	128.50	137.00	144.00	144.00	5.1%
	輸入量	0.55	1.00	0.65	0.65	▲ 35.0%
	消費量	46.74	46.75	47.70	47.70	2.0%
	輸出量	92.14	82.50	93.00	93.00	12.7%
	期末在庫	20.00	26.10	27.64	27.40	5.0%
アルゼンチン	期首在庫	28.89	26.70	25.50	25.30	▲ 5.2%
	生産量	48.80	46.00	52.00	52.00	13.0%
	輸入量	4.88	5.00	4.70	4.70	▲ 6.0%
	消費量	38.77	41.50	43.00	43.00	3.6%
	輸出量	10.00	3.70	6.35	6.35	71.6%
	期末在庫	26.70	25.30	25.50	25.30	0.0%
中 国	期首在庫	19.46	26.80	29.80	30.80	14.9%
	生産量	18.10	19.60	19.00	19.00	▲ 3.1%
	輸入量	98.53	97.00	102.00	101.00	4.1%
	消費量	91.50	94.00	100.00	98.00	4.3%
	輸出量	0.09	0.10	0.10	0.10	0.0%
	期末在庫	26.80	30.80	31.00	33.00	7.1%
世界計	期首在庫	114.71	95.87	91.49	92.82	▲ 3.2%
	生産量	339.70	363.26	385.22	383.63	5.6%
	輸入量	164.97	164.71	171.71	170.61	3.6%
	消費量	312.43	319.07	332.04	329.57	3.3%
	輸出量	165.06	164.93	172.85	172.33	4.5%
	期末在庫	95.87	92.82	94.49	96.15	3.6%

資料：USDA

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

（調査情報部 横田 徹）